

次期東北圏広域地方計画策定に関する第4回有識者懇談会 議事要旨

日時：令和5年3月23日（木）

10:00～12:00

場所：東北地方整備局

水災害予報センター（WEB 併用）

1. 日時：令和5年3月23日（木）10:00～12:00

2. 場所：東北地方整備局水災害予報センター（Web 併用）

3. 出席委員

石井重成委員、今村文彦委員、姥浦道生委員、小笠原敏記委員、舘田あゆみ委員、田中麻衣子委員、中出文平委員、浜岡秀勝委員、宮原育子委員

4. 挨拶

5. 議事

- ①新たな東北圏広域地方計画骨子（案）について
- ②意見交換
- ③その他

主な発言内容

議事

事務局より議事について説明を行ったのち、骨子案や、地域生活圏に関する意見交換が行われた。各委員から出た意見は以下のとおり。

- ・資料2の10ページについて二点コメントさせていただく。
- ・まず今回、東北圏の将来像の重要テーマをあげていただいた。それを実施するための4つの基本方針、そして6つの戦略的目標を段階的に、今までの議論が活かされた形で整理いただいた。明確である。
- ・課題としては、4つの基本方針のオレンジの部分について「防災・減災」、「強さとしなやかさ」というキーワードがある。今後は国内外でこのテーマが非常に重要なので、カタカナは個人的にはあまり好きではないが、英語のキーワードもここで盛り込めると東北での取組が世界と共有できるのではないかと。
- ・レジリエンスは国内外で言われているので、「レジリエンスといえば東北だ」というようになると良い。活動や実績を見てほしいというような言葉をここに入れてはどうか。
- ・昨日のWBCやサッカーがあれだけ盛り上がっているのは、やはり国際的に日本が頑張っていて、長期的な人材育成もされ、世界的なサポートもしているからであると思う。そういったことをやはり実感するには、国内だけでの活動では自分自身の評価ができないだろう。おそらく若者はそ

ういうところを目指しているのだと思う。

- 2点目は、資源と資本の文言の使い方についてである。
- 資源というのはすでに豊かな資源ということで、もともとあるものである。ただ、資本の意味合いとして、基本は将来の投資や価値を生み出すという意味合いが強い。資源から資本にという強いメッセージを含めても良いのではないか。
- 最後に課題として、計画されている10年先の社会をどう見るのか。10年後のビジョンはそこまで先の話でもない。かなり近いところまできている。
- 10年後の、資料2の10ページの絵を見ながら、これはどういう状態なのか今ひとつイメージがしづらい。
- 個別の一つ一つの目標はよく分かる。
- ただこの10年で東北はどのような姿になっているのかというのがなかなかイメージしづらい。難しいことだが、ゴールとして「このような世の中になっている」という表現があればわかりやすくなるのかもしれない。
- こんな風に生活して、こんなに東北が輝いているといったやさしいイラストがあればやわらかくなるのではないか。
- クリエイティブな地域、イノベーションを起こすという、カタカナの表現がある。どちらも非常に重要だが、クリエイティブな地域とはどういうことなのか、うまく伝わらない可能性があるため、イラスト等を用いてクリエイティブやイノベーションを上手く説明できると良い。
- 資料2最後のページの「4. 誰もが自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成」の書きぶりが寂しい気がする。非常に大事なところだと思うが、他の基本目標と比べるとなかなか書くのが難しいのか、書ききれていない。
- あまり力を入れていないのかと思われてしまうのではないか。自分らしくチャレンジできることを実現するためには、人の動きを促進するための環境整備が非常に大事だと思う。
- 結局は「生活しやすい」、「移動がしやすい」、「働きやすい」といったことがこの戦略的目標「自分らしくチャレンジできる自立的な地域運営の実現」を後押しするのではないかと思った。
- また交通環境の整備や様々なインフラネットワークの整備をしっかりとしていくことで、女性でも、若者でも高齢者でも活躍できるといった表現を追加できると良い。
- かなりまとまってきたのであまり申し上げることもないが、他の委員がおっしゃったことと同じ意見である。
- 第3章の18ページ以降で、基本方針2と3はそれぞれ2項目ずつ戦略的目標があるが、基本方針1と4は、戦略的目標が1項目ずつで、基本方針4の書きぶりが寂しい。
- やはりそれぞれの基本方針でやるのだということが見えるような形にした方が、形式的な話ではあるが、それが実質的な印象に繋がっていくという気がした。
- それに関連して、環境整備という話がでたが、もう一つは「誰もが」という視点が非常に重要だという議論も出ていたかと思う。当初は女性だけなのかという議論だったかと思うが、むしろ私自身のような世代が一番働いているのではないかという話もあった。
- 東北地方ではむしろ高齢者の方にどう活躍していただくかということも非常に重要だという話が出ていたと思うので、例えばそういうところを付け加えていただいてはどうか。

- ・形式的な内容だが、17 ページに出てきている東北圏の将来像で、4 つの方針と、赤の下線が引かれている 4 本の柱はリンクしないところもあるように見える。そのあたりをもう一度何とか整理していただければと思った。
 - ・東日本大震災の経験からクリエイティブな圏域を目指すということになっているが、クリエイティブの部分についてはそのあとの 18 ページの基本方針にはあまり出てこない。
 - ・脱炭素化社会の話が二点目にでていますが、2 つ目の基本方針ではコンパクトな圏域という話も出てきている。この辺りを整理することで、ひょっとしたら中身を組みかえるような話もありえると思う。
 - ・当初はデジタルをどこに入れるのかという話をしていたと思うが、東日本大震災の経験という話と、この原子力災害を経験した東北圏だからというあたりの表現が増えてきて、それからさらにもう一つ別のものができるのかもしれない。
 - ・いずれにせよ、こちらの 4 本の柱と 4 つの基本方針の整理が必要だろう。もう少し先行した形になればいい。
 - ・それ以外の個別の中身については非常にいろいろな要素を入れていただいた。ほかにもあるのではないかという話を入れたら削除する部分も出てくるかと思う。異存はない。
-
- ・事務局からのヒアリングの際も子育てや関係人口、人材等についてお伝えした。
 - ・以前と比べて、伝えたいことがだんだんとすっきりしてきた印象がある。
 - ・資料 2 の 10 ページまでの個別の内容を整理しているところは、その通りだと思っている。
 - ・自己実現という表現があるが、ここが重要だと感じている。
 - ・昨日も 23 歳の女性の転職相談にのっていた。人は自分でキャリアを決めると一番幸福度があがるとされている。人間は自分で決めて、自分の能力を発揮したい、自分で幸せになりたいということである。
 - ・東北から若者が流出するというのは、東北ではそれを感じられていないからなのではないか。
 - ・話を聞くと、職場 40~50 代の人が「それは仕方がないだろう」というような昭和の雰囲気があり、こういう人になりたいという先輩がいないため仕事を辞めたいと転職を考えるようになっていよう。実は私自身自身も同じことを入社 1 年目に感じていた。
 - ・私の頃から 20 年ほど経っているが、何も変わらないのかと感じたところがあるのだろう。
 - ・国土形成計画は土地が入口となっているが、人間が議論しており、人間が受益者の優先度第 1 位であることをふまえると、人の自己実現を考えたときに、周りの環境や年代が変わっても、状況があまり変わらないということがあるのだと思う。この話と国土計画はイコールにはならないかもしれないが、そこにアプローチすることはできないか。
 - ・自己実現できる環境を作るための交通や IT、インフラ整備ももちろんあるが、東北圏に多い中小企業の魅力は、最終的には人だと思う。何かその活動が良い方向になっていくことに、この計画が寄与するようなアプローチを資料に盛り込めると良いと思った。

(座長)

- ・人の問題であるだろうということでご意見いただいた。
- ・今世界にいる人たちの意識が、この次の 10 年、近い将来で一気になるのか、若い人たちにとって意識や人間関係が楽になるのか。とても重要な視点だと思う。

- 多くの意見をまとめていただいて、わかりやすくはなっているが、綺麗にすればするほど当たり障りのない言葉になっていく印象がある。
 - 東北らしさを 10 ページの図の中心部分でもう少し見せられると良い。
 - 重点テーマにある「デジタルとリアルが融合した「豊かな東北版地域生活圏」の形成」について、イメージがなかなかできない。10 年後、どのようになるかイメージ化する必要がある。
 - これは議論の大元である、中高生にわかりやすいというところと繋がってくると思う。
 - なかなかいいアイデアが湧かないが、そのわかりやすさをもう少し検討していけたら良いと思う。
 - その中で、できれば東北版のデジタル田園都市を 10 年後に形成できたら良いというような、まずモデルを描けるともう少しわかりやすくなるのではないかと思う。この取りまとめに対してはうまくまとまっている印象を受けた。
-
- 10 ページの「守る」という表現に対して、「攻める」ではないかという話を個別でさせていただき、図に反映していただいて、ここに記載があることをうれしく思っている。
 - その心としては、日本一、人口減少が進んでいく地域だからこそ、日本一の課題解決のトップランナーを目指していく、そのような意思やスタンスを示していくことが重要だと思う。
 - それは官民連携を進めていく上で、どうやっていろいろな人たちを巻き込んでいくのかもそうであるが、世界の中で一番人口が減少し、高齢化が進んでいる国の中で、最もそれが偏在化している地域において、何ができるか、世界に対してどういう貢献ができるかというものでもあると思う。
 - 人口が減っていく地域だからこそ、この課題に取り組んでいくトップランナーを目指し、そういったメッセージは改めて伝えていくべき内容だと思う。
 - せっかくこの 10 ページに記載していただいており、17 ページの将来像を文言化したものなのだと思う。17 ページの将来像の文章にも、守るべきレベルをしっかりと峻別しながら、段々と目指していくのだという趣旨をしっかりと対応いただくのが良いと思う。ポンチ絵にある内容が 17 ページにも書かれているのかどうか気になっている。
 - 二点目は質問になるが、個別に委員を回られて、私自身もかなりいろいろな議論をさせていただいた。
 - 中高生にわかるように、誰にもわかるような計画を作るという中で、20 文字でコピーをつくらせたらどうするか、東北オルタナティブや新しい選択肢を示していくのか、この先の KPI の目標や施策をどのプレイヤーに対して設定するのか、といった議論をした。
 - チャレンジを受容するというのは、すなわち失敗を受容できる文化や素養をどうやって育てていくのかというのがつまるところ本質なのではないか。
 - 例として、ChatGPT は未来の話だと思っていたが、目の前に来ている状況である。人口が減っていく地域で、本当に人間がやるべきことは何か、技術にゆだねて手を放していく部分はどこか検討する必要がある。
 - こうした話を各委員の皆様がされているので、どういう論点であって、どんな意見があげられたのか。それらを精査いただいていると思うが、当然まだ盛り込まれていない論点もあると思う。
 - 今後の議論につなげていく上で、各委員からどのような意見がでてくるのか、この段階で可視化

して、皆様と共有することが重要だと思う。

- どのようなご意見が出たのか一覧化しておくだけでも議論になると思う。
- もちろん委員の皆様から挙げられた意見の全てを反映するべきものとは思わない。基本目標の概要で入れる内容と、具体の施策に落とし込む内容と両方あると思う。
- 委員の皆様が共通認識を持っていくということが重要かと思う。
- 差し支えなければ、その資料を見せていただいた上で、今後の議論となればと思った次第である。

- 3月7日に国の第17回計画部会が開催されており、そこで重点的に言われたことについて補足する。
- 資料3の国土構造の基本構想の「シームレスな拠点連結型国土」のうち一つは、「広域的な機能の分散と連結強化」となっていて、「日本中央回廊」という名称になった。
- また、広域圏の連携というのが国土計画では一つのミソになると思う。さらにもう一つ、生活圏の再構築が重要な位置付けになる。
- 4つの重点テーマについても、ポンチ絵でいうと左側に「地域生活圏の形成」があり、右側に残りの3項目がある。そうすると、地域生活圏の形成がやはり一番、今回の新しい国土形成計画の肝なのかということである。計画部会で議論している内容も骨子案ではあるが、地域生活圏というのが重視されていくと思う。
- さらに、他の委員も意見をされていると思うが、人口減少に関して、現行の国土形成計画でも言及しているがまだまだ足りないのではないかと。資料3の左上に「未曾有の人口減少、少子高齢化がもたらす地方の危機」と記載されており、国はかなり強調している。
- 一方で今回の東北圏の計画ではどうなっているかということ、東北圏を取り巻く状況のうち人口減少に関してどれだけ深刻に受けとめているか、少し認識が甘いのではないかと。
- 14ページで「全国の傾向より速いスピードで高齢化が進んでいくことが懸念されている」と書いてあるが、今までやってきた同じことをやっけては駄目だ、人口減少を食いとめることはもうできないとするならばどうするのか、というようなことまで踏み込まなくてはいけないのではないかと。14ページ東北圏を取り巻く潮流の3番目「人口減少・高齢化の深刻化」が気になるところである。
- 課題で言うと、4番目の産業の活性化のうち「競争力のある産業振興」で、計画部会では、女性の産業を位置付けて成長産業にドライビングフォースを担ってもらうとかなり明確に打ち出されている。総花的に、産業の活性化、国際競争力のある産業振興と書くのではなく、東北の強みとして、成長産業は何でということを書かないと、東北圏でなくても書ける内容になってしまう。
- また、7番目の「美しい圏土や歴史的文化の保全と活用」の課題について違和感がある。
- 三内丸山遺跡が現在登録に向け推奨されているというのもあるが、世界遺産とするならば、この美しい圏土に関しては国が提唱している「グリーン国土の形成」がキーワードであり、国際的な30by30が一つの大きな課題である。
- これに関して東北で旗頭になるのは白神山地であると思うが全く書かれていない。歴史文化の保全・活用は理解できるが、ここはグリーン国土の形成について書くべきではないかと。
- また、11ヶ所のジオパークが認定されているという記載について、確かに新潟も含めた東北圏では日本ジオパークが認定されているが、一般の国民からすると、国立公園や国定公園の方が「美しい圏土」には感覚として馴染むのではないかと。新潟県だけでいうと、国定公園が2つ、国立公

園が4つある。

- そう考えると、ジオパークの記載を変えるべきとは言わないが、なぜ国立公園や国定公園、あるいは各県が定めている県立公園が書かれていないのか違和感がある。
- 8番目は先ほど申し上げたが、人口減少社会に適用する地域生活圏の形成について、やはりここが問題ではないか。
- その上で、将来像実現のための方針及び目標について、2番目にある「グリーンな国土づくりに挑戦する東北圏の形成」は、全国の圏域の中では北海道に次いで30by30を達成しやすい圏域であると思う。
- 高い山があるだけでなく、2000m級の山や里山、人が使う平地が混ざっているという意味では、まさに「国土の保全と恵みある豊かな自然の継承と利活用」にふさわしい圏域だという点についてももう少し書き込まれても良いのではないか。
- また、基本方針4番目の「誰もが自己実現でき地方の先導モデルとなる東北圏の形成」については人材のことは書かれていないが、地域生活圏のことはどこで書くのか。
- 地域生活圏というのは、国の計画部会では、最重要の重点分野になっているはずだが、東北圏の計画になった途端にどこにも出てこないように見える。
- 国の骨子案が固まっていない中で、東北圏として早々に各圏域の骨子案を出すように言われて、かなり急がされているのはわかるが、もう少しこの辺りを詰めておかないと、全国計画を受けてそれをブレイクダウンして各地域で咀嚼するために、骨子がきっちりしておかないと来年度定める広域地方計画を最初から練りなおさなくてはいけないのではないかと懸念している。
- 骨子案の文章について、ページ数の制約条件があったとうかがった。多くの委員の意見を盛り込み、整合性を取るというのは、本当に大変なのではないかというのは容易に想像できる。ものがしっかりできてきたということについて私としては非常に嬉しい。
- 全体的なコメントとしては、先ほど他の委員がご指摘されたこととも関連するが、この資料2の15ページから16ページにかけて、課題が合計11示されている。
- この課題は、東北地方の中でこれでもってはいけないということが示されているものだと思う。
- それを踏まえて、今後10年先に向けてこう変えていこうという時に、この18ページから細かくブレイクダウンして書かれたことと、先の課題が対応しているとさらに良いと思う。
- 中には1対1で対応するものでもなく、全体的に考えなくてはいけない課題というところもあるかもしれない。
- 生活圏を関係づけるよう、もう少し何かうまくできればいいなということを思った。
- なかなか難しいかもしれないが、できるだけうまく1対1で、関連して対応できるような作り込みをしていただきたい。
- 17ページについて、「原子力災害を経験した東北圏だからこそ、脱炭素社会の実現のため、」という表現が少し気になった。原子力発電というのは、どちらかというとカーボンニュートラルに近いものである。「災害を受けて使えなくなったから脱炭素を進める」というのは、まだもう少し説明が必要ではないか。
- 趣旨は理解できるが、原子力災害で化石燃料を燃やすことが増えてしまった状況があるからこそ、脱炭素にしたいという意味だろう。この文章を読んでいるだけでは違和感をもたれてしまうので、書き方に気をつけていただきたい。

- また 18 ページの (1) について、「復興・再生の強い力を未来につなげる社会の実現」というところで、最後の「インフラ老朽化対策」が非常に大事である。なかなか書き込みが苦しかったところではないかと思うが、これを書くのだとしたら、被災経験を記録して伝承して伝えるというニュアンスにしてもらいたい。来たら伝えるということではなく、積極的に呼び込んで知ってもらいたいというようなニュアンスにしてもらいたい。10年前に大きな災害を受けたがここまで良くなってきているということをもっと知ってもらうため、積極的に呼ぶというようなニュアンスがあると良い。
- 19 ページの (2) の二点目で、「シームレスな交通ネットワークの形成を図る」とあるが、先ほど全国計画でもシームレスという表現があったが、シームレスな交通とはどういうことなのか少しイメージがつきにくい。つなぎ目のない連続したという意味か。表現を変えた方が良いのではないか。
- 20 ページの 3 (1) の二点目で、洋上風力発電や地域の再生可能エネルギーに関して、特に現在は秋田でいろいろなことを行おうとしている。
- 秋田の地元企業がチームを組んで、これからの新しいエネルギー、洋上風力を水素にしてなど様々な対策をしようとしている。しかし地元だけのこの力でどこまでよくできるかという、厳しいところもある。
- 日本のほかの地域もしくは海外から人や企業を呼び込んで、その方と共同していきながらその地域を盛り上げていくというニュアンスになってくれると、さらに地元の発展に寄与できるのではないか。表現の検討をお願いしたい。
- (2) のネットワークの実現については、高速道路網はもちろんだが、港のネットワークは入れなくて良いのか。コロナの影響で止まっていたがまた動き始めている。今はそういった表現が入っていない。クルーズの振興など、欧米からの観光客は地域にとっても非常に嬉しい。地域の魅力を本当に感じてきてくださっている。
- また、資料 1 で改行されて二文字で終わっているような部分がある。少し修正するだけであと一行書けるので、そういった工夫をお願いしたい。

(座長)

- 皆様から共通して出てきている部分としてはやはり、10年後の未来というところがイメージしにくいという意見があった。
- 10 ページのスライドのイメージがもう少しわかりやすく、実際の将来像のイメージが書けないだろうか。
- また、東北版のデジタル田園都市の 10 年後についてもやはりどんなイメージなのかを示したらいかがかというようなご意見もあった。
- 「攻めていく」という表現について、東北が人口減少等の課題の世界の最前線にいるということであれば、それをしっかりと攻めて解決していくことに関する提言をしていくべきではないかといったような、ところもご指摘いただいた。
- 委員からはやはり地域生活圏の形成について、全国計画の議論をしっかりと東北圏の計画に盛り込んでいくべきだというご意見があった。国の 30by30 の対応についても、やはり東北の自然を謳うのであればしっかりと位置付けたいかがかというようなご意見もいただいた。
- ページ数の制限がある中で盛り込んでいく際の工夫の仕方、クルーズについてもぜひ細かい文言

についても確認をしていきたいとご意見をいただいた。

- 私も骨子案に関しては、概ね皆さんのご意見、必要なところは網羅されているかなと思う。ただ、全体見渡して、他の先生方の意見をいただいたときに、まだまだ直すべきところや盛り込んでいくべきところがあるかと思う。
- 本日のベースで決定するというではなく、いろいろなご意見をいただきながらさらに良いものにして、全国計画とすり合わせをしながら、皆さんからいただいている東北圏らしい、東北圏ならではの計画に向けて取りまとめていければと思う。
- デジタルとリアルが融合した Society5.0 について、例えば防災の意味では、まず、現場という意味でのリアルがある。防災上とても大切なことは未来への対応である。未来に関しては、気候変動のいろいろなシナリオのもとシミュレーションを実施したり、地震、津波の想定があるがそれはかなりデジタルの世界であり、バーチャルな世界である。それによりいろいろな事前の評価が出て、被害像が見えて減災目標が立てられて、それがまた現場に戻るということになる。
- 現在において、デジタルとリアルの融合というので少し足りないのは、デジタルで出てくる情報に対して、リアルでの対策が従来のものにとどまっていることである。避難においてもスマートフォンを使うなど、もっとデジタルの活用が考えられる。車に関しては、なかなか議論は多いところかとも思うが、IoT やカーナビも進化しており、それらの課題が解決できれば安全・安心な生活圏につながると思う。
- 地域生活圏に関して、計画部会での議論を補足説明しておきたい。
- 資料 3 には国土の刷新に向けた重点テーマが 4 つあり、左側に地域生活圏の形成があつて、その横に、相互連携による相乗効果の発揮というのがあるが、実はこの右側にある 3 つ、持続可能な産業への構造転換、グリーン国土の創造、人口減少下の国土利用・管理の 3 つの課題それぞれが、実は地域生活圏のもとで展開できるというようなことである。単純ではないが、各地域生活圏でこれらの 3 つのことを展開できるという議論になっているので、地域生活圏というのは、今回の国土形成計画の中で、全ての重点テーマを展開するカギになってくる。そうすると、広域地方計画の中でも、東北圏における地域生活圏というのは、少し国の重点テーマとは違うかもしれないが、それをどう展開するのかということは、最終的には地域生活圏で落とし込めるものであるほうが分かりやすいのではないか。
- デジタルとリアルが融合した地域生活圏というものが何なのかということに関しては、第 15 回の計画部会で、地域生活圏に関してのイメージのポンチ絵が出されており、それに残りの 3 つのテーマを入れてブラッシュアップされていくと思うので、今後フォローアップして視野に入れていただければと思う。
- デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成に関する記載の 4 点目に、デジタルの徹底活用によるリアルの地域空間の質的向上というものが掲載されており、デジタルインフラや自動運転、ドローン物流、遠隔医療・教育などの例が載っているが、この辺りは既にいろいろなところで実証されている。
- 先日、デジタル田園都市国家構想の交付金の採択結果が発表され、多くの自治体が採択されている。それらの事例を見るとそのあたりの具体例が書いてあるので、そこの中のわかりやすいイメ

ージなどを、参考にしてもよいかと思う。

- また、少し違う観点だが、ICT系企業と自治体と物流企業等とで2050年の脱炭素社会とはどんなものかというようなワークショップを先日行った。まず2050年に、例えば仙台市はどのような都市になっているのだろうか、という議論から始め、ではそのためには2030年はどうなっている必要があるのか、そのためには私たちは何をしたらいいのか、とバックキャストで考えてみた。議論のまとめとしては、デジタルで様々なものが“見える化”され、それにより住民一人一人が脱炭素という課題に対して自分の事としてしっかり認識を持ち、ポジティブに動いていくことこそが重要だという結論になった。戦略を考える上では、一人一人の住民の考え方にどう訴え、行動変容につなげるかが主役であり、デジタル化やハード環境整備はそれを後押しする要素の一つでしかない、という内容でみんなが腹落ちした。たまたま「脱炭素社会」をテーマに行った事例だが、将来構想を考える上でも参考になるのではないか。
- 中高生にもわかるような資料にした方がよいという話がある一方、あまり簡単にすると当たり障りない言葉にもなってしまうというような話があった。個人的には資料2の10枚目が、皆さんが大事と思っているところかと思う。
- 中高生が理解できるようになるということをどう実現するのかを考えた時、例えば、10年後の状態はどういうことが行われていれば、これが実現されていることになるのかということ頑張って言語化して、それが実現されている状態の、ある1日やシーンを切り取って映像などでビジュアルに表現されていると、つまりそういうことかということが理解しやすいと思う。
- 地域生活圏については今、人口10万人程度をイメージして示されている。人口はわかりやすい指標だと思うが、人口でよいのかという気がしている。どういうことかということ、日本は人口がバラバラに広がっている。ヨーロッパなどでは人口10万人でもとても密集しているので、人口10万人でもにぎわっていると感じる。日本はそうではないというところがあるので、人口は分かりやすい指標ではあるが、もう少しそこを変えていく必要もあるのではないか。
- 人口密度がある程度高いエリア、DIDのような、そのような指標に変えていくということも重要ではないかというふう感じた。
- 人が集まるというのは非常に大事だと思う。最近は仕事もテレワークでできたりもする。では人と付き合うということもZoom越しでよいかということ、3年前に私もZoom飲み会をしたことがありその時は楽しかったが、やはりリアルで飲み会をするのとは全然違う。
- やはり、人と人がface to faceで会うというのは非常に大事だと思う。それがしっかりできる環境でないと意味がないかと思う。高校生が分かりやすい計画にという話があったが、高校生も、その場所が本当によければずっとその場に住んでくれるが、何か物足りなさを感じて、まちを出て行くとしたら、その物足りなさというのは「人と会う」ということではないか。もちろん、それ以外にもあるかもしれないが、大部分はデジタルで代替できるかもしれない。
- 何かものを知りたいとなると、ある程度、コンピューターの世界で再現できるが、最後の最後に、人と人が、ということについてはリアルでとなるだろう。そのリアルをきちんと感じられるためには、人口という指標も大事だろうが、それに代わる、人と人が接している度合いのようなものを示すことがこれから重要になってくるのではないかと思う。どういう指標が良いというのはここでは明確ではないが、そういう方向性を少し考えていかなければと思った。

- ・また、この地域生活圏については、よく文字で示されてるがなかなか実感がわきづらい。どういう生活になるのか、どういうものになるのかというのがやはりイメージ図をもとに説明されるとさらに理解が深まり、次の検討にもつながりやすいかと思う。もう少しイメージできるものを見せていただけるとよいと思う。
- ・地域生活圏については、基本的には私は 19 ページのところに書かれているのかと思っている。ただ、「地域生活圏」という言葉が入っていないのはおっしゃる通りなのでそこをきちんと書く必要があるかと思う。
- ・少し細かい話だが、この 19 ページで申し上げると、都市機能のコンパクト化というのが、機能自体がコンパクトになるようなイメージを受ける。多分、想定しているのは、機能の集積の場所、空間的な範囲をコンパクトにするということだと思うので、その辺りは表現の工夫をした方がよい。
- ・そもそも、なぜ地域生活圏ということが出てきたのかということを考えてみると、東北が一番わかりやすいが、例えば人口がどんどん減ってきて、それを市町村合併なりでやっていこうということで、当然人々の生活というものもあるが、その生活を支えるための行政サービスなり、社会的なサービスというものをどのように提供していくのかということを考えてときに、今の自治体という単位ではなかなか難しいという実態があるのかと思う。
- ・それも含めて、近隣市町村間で都市機能を相互に補完するという話が出てきているのかと思うが、その意味では 16 ページの例えば 8 番に、今後単独の市町村ではなかなか生きていくことは難しい、それをすることが必ずしも効率的ではなく、長期的に見るとそれが人々にとっても良い話ではないということを書いておくことがよいのではないかという思いがした。
- ・とはいえ、そうするといろいろと不都合が出てくる。対面で会うべき時というのは、それはそれで必要だが、必ずしもそうではない場合もあって、それをどのようにこの ICT 技術等を使いながら、遠隔医療等も含めてやっていくのか、ということかと思う。もしくは塾等、教育などもデジタルを活用してできるような形にしていくこと、東北大もだんだん東京に侵食されつつあるが、それをどのように頑張って、東北の学生さんに来ていただくかということも含めてだが、今後地方と東京等との教育格差のようなものを減らしていくのかということもあるかと思う。
- ・地域生活圏というのは、これまで市町村を中心として考えてきた生活圏を、一つはそれよりも小さな地域コミュニティという単位をどう考えていくのかという動きと、それからもう一つはそれを広域化したような動きというものを連動させながら、当然中間には自治体が入ってくるので、その自治体、市町村が重要な役割を果たしていくということが重要になっていくわけなので、そのあたりは今でも十分書かれているような気がするが、もう少しわかりやすくという、他の委員のおっしゃることもごもっともかなという印象を受けた。

(座長)

- ・本当に皆様からの貴重なご意見ありがとうございました。
- ・今回、第四回目の懇談会ということで年度の最後ではあるが、そして骨子案の全体の流れを皆さんに見ていただいた。次年度も引き続き議論を進めていく、また、地域生活圏のうち考え方、打ち出し方、また表現のあり方についても、少し深めていくということが重要かと思う。委員の先生方からもそのようなご意見だったかと思うので、また新年度以降に皆様や構成機関の皆さんに

お示しし、協議しながら修正したものをお諮りしていくというような形になるかと思う。

- よろしく願いしたい。
- 本日も皆様から改めて重要なご指摘やご意見が出された。やはり東北の計画を作っていくという時に、全国と合わせていくのももちろんだが、ある意味、東日本大震災以降、東北圏が抱えている諸課題が、ポジティブにもネガティブにも先進的なところを、どのように捉えてこの計画に落とし込んでいくかということが重要だろう。
- それから、例えばこのコロナが始まってからの3年間の社会の変化のスピードというのを考えてみると、これからの10年の社会の変化のスピードというのが、コロナ前の速度なのか、それともコロナのこの加速した変化のスピードから、またさらに変化の加速が早くなっていくのかと考えると、やはり10年というよりもっと5年とかそういった感覚で進んでいってしまうのではないかと感じている。
- ただそういう中で、東北にとっては、人口減少というのが非常に脅威の一面である一方、様々なアイデアや、新しい取組というのが試せるという土壌にもなりつつあるのかと思う。
- 特に大震災を受けて、いろいろな仕組みを新しく変えていく、それからトライしていくというような事象は、多分東北に非常に多いと思う。またそれを契機にして、若い人たちも入ってきたし、それからミクロなスケールでいえば、起業など個人が、地域で、特に若い人たちが非常に頑張ろうとしている、そのような姿もかなり東北で見られるようになった。
- 大きな枠組みの中では、なかなか国と東北といった関係や、東北の良さみたいなところを東北全体で押し出す力というのは決して強くはないが、やはり、地域に根を張って活動し始めている人たちの力というのは、着実に強くなりつつあるし、他の地域のお手本となるような活動も増えてきているのだと思う。
- そういった様々なよい変化を、東北の中できちんと捉えながらそれを伸ばしていける、それからそれを支援していけるような社会づくり、圏域づくりというのが非常に重要かと思う。
- 非常に漠としたような言い方で申し訳ないが、ただ皆さんには、これからの東北が良くなっていくための方向性というのはお示しいただいたかと思う。本当に皆さんありがとうございました。

以上